

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き(案)」について

50年、100年後も
住み続けたいくなる地域であるために

2021年12月8日

観光を活用した持続可能な地域経営を行っていく意義・重要性

- 本格的な人口減少と超高齢化の同時進行、低迷する経済や地域の自立・活性化への早急な対応、SDGsの達成やカーボンニュートラルへの対応等の要請にこたえていく必要があるなか、**将来にわたって住み続けたい地域であるためには、経済面、社会・文化面、環境面を総合的に考慮して、地域の課題を解決しつつ、持続可能性を持った地域経営を行っていくことが不可欠であり、住民の生活の質に対する満足度であるQOLを高めていくことがますます求められています。**
- 観光は、裾野が広く、地域の人材・資源・産業を有効に活用できるなどの特徴を有しており、**観光を切口とし、各地域が抱える課題を目指すという視点を持つことが極めて大切**となっています。
- そのため、地方自治体や地域が**持続可能な地域経営を図っていく上で、観光を重要施策・柱に位置付け活用していくことで、地域課題の解決を図っていくことの意義・重要性は大きいものがあります。**
- また、今般のコロナ禍を通じて、観光の脆弱性が浮き彫りになりましたが、今後の教訓として、**将来同様な状況が生じた場合でも、地域における観光の取組を後退させないため、観光が果たす役割や重要性を地方自治体の施策の中にしっかりと位置付けておくことが肝要**といえます。

「持続可能な地域経営」とは何か？

（地域経営とは？）

- 地域経営とは、住み続けたい地域であるために、地域の課題を明確にし、多様な力を集結して解決に取り組むことです。
- より具体的には、責任と能力のある主体によって、科学的な根拠に基づき、課題解決のための計画・取組とその成果を連動させ、計画・取組の継続的な改善を行っていくことです。

（持続可能な地域経営とは？）

- **経済面だけでなく、社会・文化面、さらに環境面、以上の地域の全ての側面が持続可能であることが必要**です。
- つまり、「**持続可能な地域経営**」とは、**地域の全ての側面を対象として、総合的に課題の解決に取り組む**「**地域経営**」のことです。

住み続けたい地域であるために

産業振興、雇用確保・創出
地域内循環

経 済

社会・文化

環 境

福祉/厚生維持・確保、
文化維持・継承、
ガバナンスの向上

環境保全、
自然との調和

持続可能な地域経営

地域のすべての側面を対象として、
総合的に課題の解決に取り組むこと

（具体的には）

- ✓ 責任と能力ある主体による地域経営
- ✓ 科学的な根拠に基づく地域経営
- ✓ 計画・取組と成果を連動させた地域経営
- ✓ 計画・取組の継続的な改善を行う地域経営

「持続可能な地域経営」はなぜ必要か？

（地域における資源制約の顕在化と多様な力の結集の必要性）

- これまで豊かな地域生活を支えてきたリソース（資源）の制約が顕在化しています。
- 失われた20年あるいは30年を経て、地域で活用できる人、モノ、金、また、豊かな文化や自然環境が十分でなくなりつつあります。また、気候変動を抑えるためのカーボンニュートラル対応も求められています。また、住民の生活の質に対する満足度であるQOLを高めていくことがますます求められています。
- 住み続けたいくなる地域であるためには、これらの課題を地域の限られた資源で、多様な利害関係者の力を集結して解決することが求められます。

（「持続可能な地域経営」を行っていくことがなぜ必要なのか？）

- 「持続可能な地域経営」は、地域のなりたい姿を共有し、総合的に課題の解決に取り組み続けることで、他地域からの来訪・他地域との交流も活用しつつ、資源制約下にある地域の総力を発揮することにつながります。
- このとき、なりたい姿と課題、課題解決の取組と成果を分かりやすく見える化することで、多様な力（ステークホルダー）を結集し、意思決定への参画と合意形成を促進します。

「持続可能な地域経営」は何故必要か？

唯一の解決法！

近年の地域を取り巻く課題

- ✓ 少子高齢化、若者を中心とした社会減等
- ✓ 自然環境、地域の文化や伝統産業等の地域独自の資源の承継の危機、カーボンニュートラル対応
- ✓ 財政悪化

【関係者例】

- ✓ 経済面 : 民間事業者や関係団体等
- ✓ 社会・文化面 : 住民、教育関係者、文化財所有者等
- ✓ 環境面 : 一次産業関係者等、動植物・水質保全等関係者

人・モノ・
金の不足

利害の調整

持続可能な地域経営

- 課題解決に総合的に取り組むことで、資源制約下にある地域の総力を発揮
- なりたい姿と課題、課題解決の取組と成果を分かりやすく見える化することで、ステークホルダーをはじめとした多様な力を結集

「持続可能な地域経営」を行うためになぜ観光から取り組むのが良いのか？

(観光から取り組むことがなぜ良いのか？)

- 観光は、地域の人材や資源をフル活用することで魅力が高まります。そして、観光振興には住民との調和の確保や文化資源の保全・活用、また、自然環境の保全・活用が必要です。
- 観光振興に真剣に取り組むためには、地域の多様な力を結集することが必要です。そして、多様な力の結集は、地域の総合的な課題解決に不可欠です。
- また、観光は、地域に貢献する交流人口・関係人口をつくる取組であり、こうした外部からの評価を得ることで「地域への誇り（シビックプライド）の醸成」を図ることができます。
- そもそも観光政策は、総合政策であり、「持続可能な地域経営」にチャレンジするにあたって好適な政策分野であるといえます。

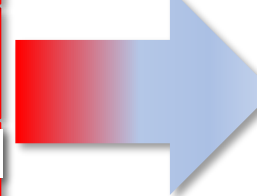
観光・観光政策と「持続可能な地域経営」

観光政策は総合政策

観光の特徴

- 裾野が広く、地域の人材・資源の有効活用が図れる
- 観光を考えることは地域の多くの産業を考えることにつながる
- 暮らし続けるために必要な「地域への誇りの醸成」が図れる
- 観光振興のために多様な力が結集する
- 交流人口・関係人口を作ることができる

観光を切口に
持続可能な
地域経営を！



持続可能な地域経営

- 課題解決に総合的に取り組むことで、資源制約下にある地域の総力を発揮
- なりたい姿と課題、課題解決の取組と成果をわかりやすく見える化することで、ステークホルダーをはじめとした多様な力を結集

地域のすべての側面を対象として、
総合的に課題の解決に取り組み続けること

「観光を活用した持続可能な地域経営」の必要性について – 課題解決のイメージ –

➤ 「観光を活用した持続可能な地域経営」によって、地域の課題解決が進みます。

地域の新たな基幹産業の創出【岐阜県】

人口減少下で経済変動などの外的要因に左右されない新たな基幹産業が必要

- ⇒ 伝統産業、社会・文化資源、自然資源が豊富な地域が連携し、観光消費額を拡大・基幹産業化を目指していく
- ⇒ 観光以外の部署と連携して地域資源を棚卸、経済面、社会・文化面、環境面の現状や成果を示す指標を収集
- ⇒ 「清流長良川の鮎」世界農業遺産化、「語り部」の育成、自然・文化を知る教育旅行の造成、伝統産業の後継者対策（官民協議会の設置、補助事業等）

周遊型・宿泊滞在型の観光を実現する産業クラスター 官民、多様な分野の力を活用した新たな基幹産業の創出



長良川では流域86万人のくらしの中で清流が保たれ、鮎が育ち、地域の歴史、文化、経済と深くつながっています。

食文化と鮎産業

長良川では、鮎を中心とした内水面漁業が盛んです。観光資源である輪削や、鮎煎、鮎菓子といった食文化など、鮎に関わる産業に多くの人々が関わっています。

豊かな生物多様性

流域には、太平洋から運上するアユやサツキマスなどの回遊魚のほかに、特別天然記念物のオオサンショウウオや、天然記念物のネコギギなど、多様な生物が生息しています。

伝統漁法と資源の確保

長良川には、「輪削漁」「瀬張り網漁」「夜網漁」など、様々な伝統漁法が引き継がれています。特に、長良川輪削は、およそ1300年前から続く伝統ある漁法です。

守り伝える伝統技術

長良川のきれいな水を利用したユネスコ無形文化遺産の本美濃紙や、伝統工芸品の蓆上本染など、様々な伝統技術が継承されています。

里川の利用と保全

里川は、人々が適切に管理することで守られます。長良川の環境や景観を保全するために、下流にきれいな水を届ける「水舟」という知恵が、今も生活に繋がっています。

出典)世界農業遺産「清流長良川の鮎」のリーフレット

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/256821.pdf/20211128> 閲覧

「観光を活用した持続可能な地域経営」の必要性について – 課題解決のイメージ –

➤ 「観光を活用した持続可能な地域経営」によって、地域の課題解決が進みます。

観光の季節性を解決することを通じて、地域の総力を上げる取組に【カナダ・トムソン=オカナガン】

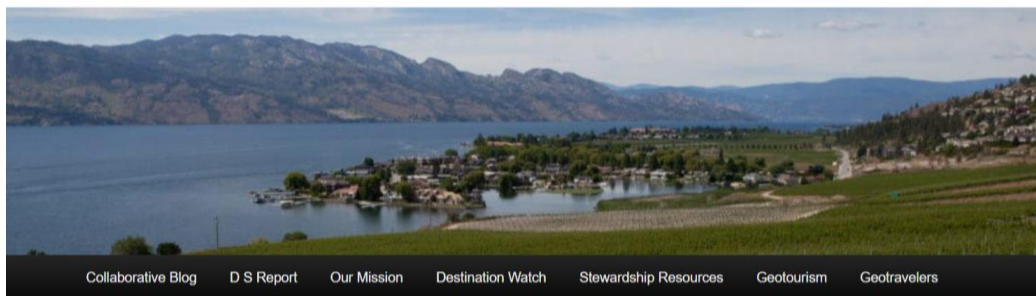
夏季に80%の観光客が集中、ピーク対応の限界と他時期での収入確保が必要

- ⇒ DMOがGSTC関連の認証を取得、持続可能性について地域事業者へのコンサルティング等を実施
- ⇒ INSTOを通じた先進事例情報等も参考に5つの戦略を策定
- ⇒ ①地域を象徴する商品の発掘、②物語の発信、③地域の食を豊かに、④個人の視野を広げる、⑤本物の「体験」

住民を含むステークホルダーの参画
先住民族文化のコンテンツ化による季節平準化・文化保全を実現

Destination Stewardship Center

Extending the work of the National Geographic Center for Sustainable Destinations.



Collaborative Blog D S Report Our Mission Destination Watch Stewardship Resources Geotourism Geotravelers



Photo: Don Weixl/TOTA



Scenic biking. Photo: Allen Jones/TOTA

Doing It Better: Thompson Okanagan, B.C.

LOG IN AND POST
 Log in to submit a DSC post. Be sure to read [editorial guidelines](#) first. New user? [Register here.](#)

出典) Destination Stewardship Centerホームページ
<https://destinationcenter.org/2019/06/doing-it-better-thompson-okanagan-b-c//20211128> 閲覧

「観光を活用した持続可能な地域経営」の必要性について – 課題解決のイメージ –

▶ 「観光を活用した持続可能な地域経営」によって、地域の課題解決が進みます。

水質保全の必要性を発見、その解決によって国際ランキングが向上【スレマン・インドネシア】

適切な廃棄物処理による水源の水質保全が必要

- ⇒ INSTO参加のために地域の課題を診断、水質保全が解決すべき重点課題と明確化
- ⇒ 大学との連携により、浄水層を設置
- ⇒ 観光事業者も「デスティネーションの質の向上」が重要との認識が浸透、個別の取組も進む

水源保全により、地域住民・観光客の安全・安心の確保
観光分野の国際観光競争力ランキングが向上

データを活用した「持続可能な地域経営」によって、税制を改革【ブエノスアイレス・アルゼンチン】



データに基づくガバナンスを実現することで、様々な地域課題を解決したい

- ⇒ ビッグデータも活用し、①データ取得、②データ分析、③政策形成、④政策評価のプロセスを見える化し、公開（ダッシュボードシステム）
- ⇒ 観光以外の部署も公開データを利用。観光分野では、増大する観光需要による供給ひっ迫を予測し、これを回避するための民間投資誘導策を検討

観光分野では、ホテル建設促進に資する税制改革
様々な政策分野で科学的な行政が実現

観光を「持続可能な地域経営」でどのように活用していくのか？

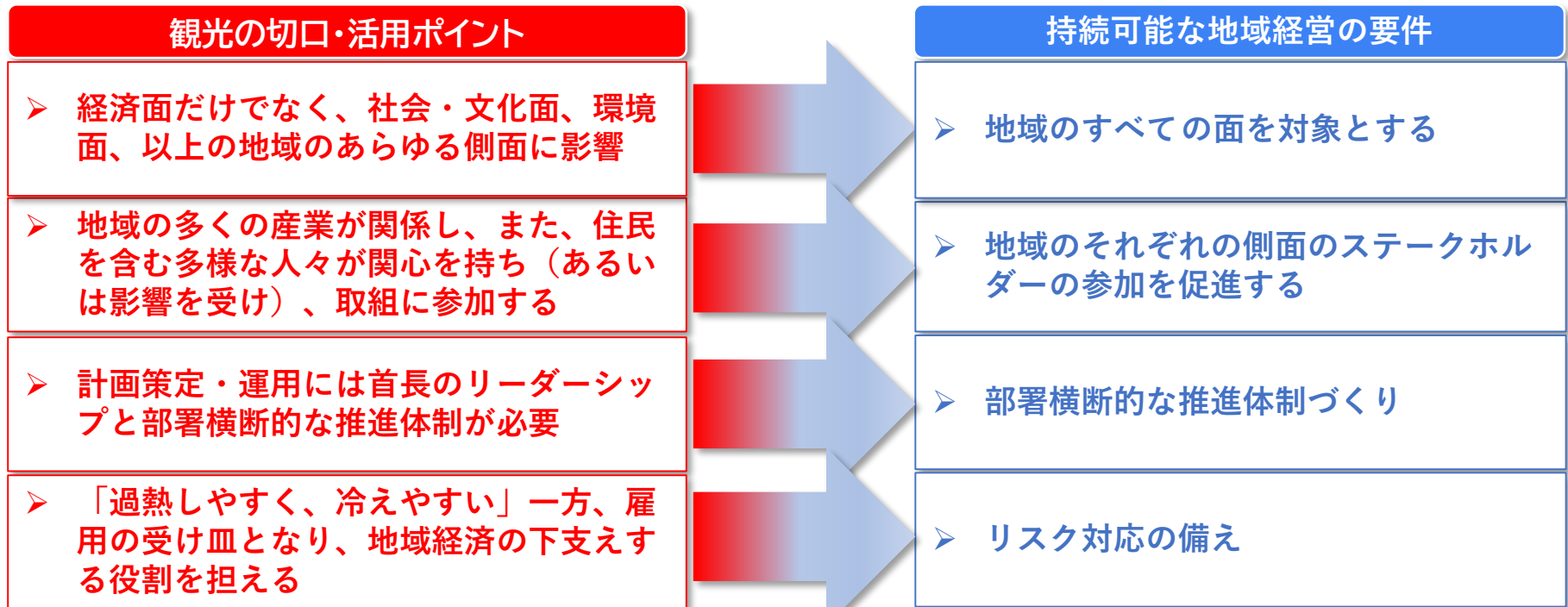
(観光の特徴～観光振興～持続可能な地域経営の要件のつながり)

➤ 観光の特徴から、観光振興に真剣に取り組むことで「持続可能な地域経営」の主要な要件を実現できます。

観光・観光政策の「持続可能な地域経営」への活用

具体的な切口・活用には、
こうしたものがある

ただし、簡単ではない。。。



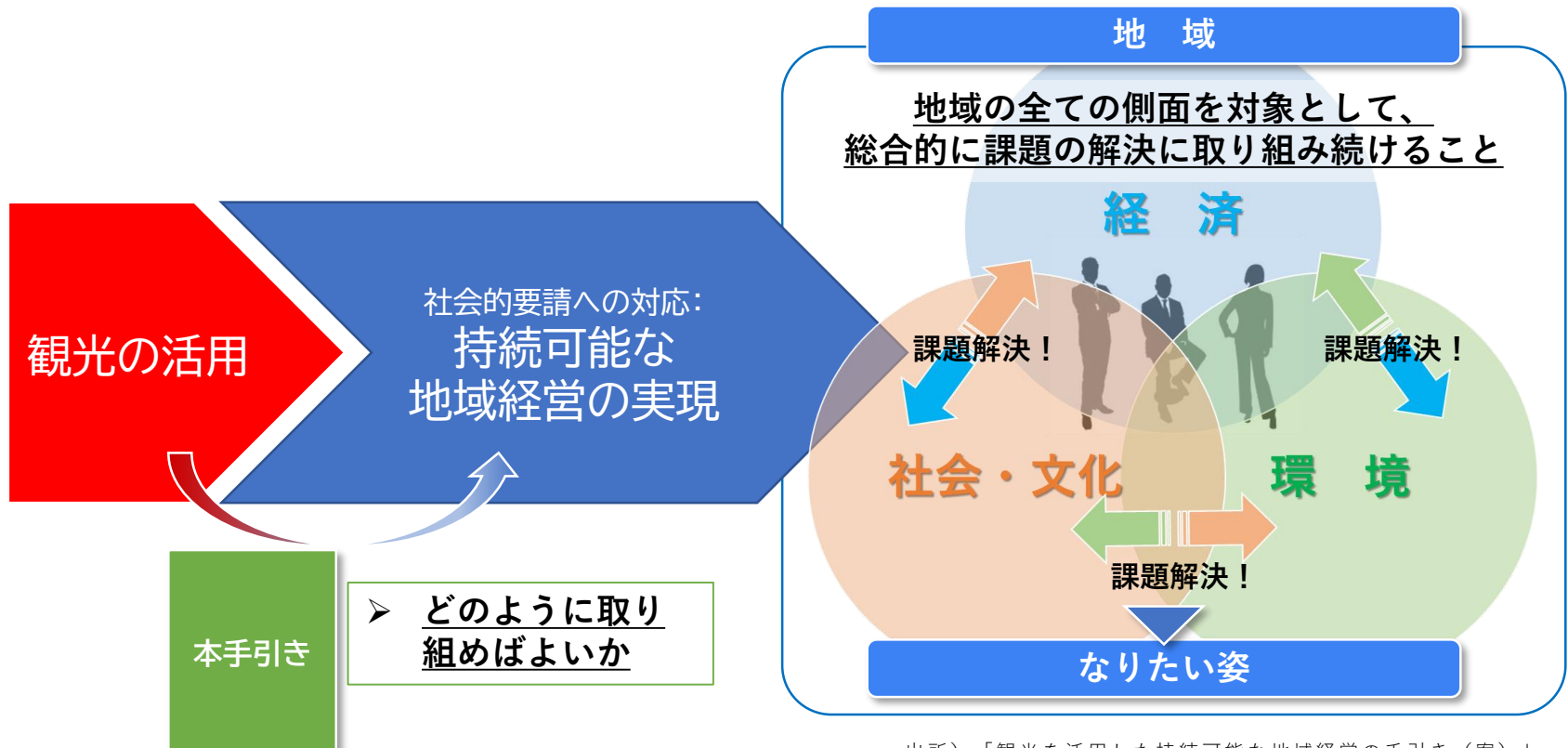
「観光を活用した持続可能な地域経営」を実現するための 取り組み方について

- 観光を活用した持続可能な地域経営は、これまでにあまりない取組です。このため、**地域における取組を後押す手引きが必要**と考えました。それが「**観光を活用した持続可能な地域経営の手引き**」です。
- 観光を活用した持続可能な地域経営は**PDCAサイクルを回すこと**によって行われるものです。**地域のなりたい姿を共有し、なりたい姿を実現するための課題の抽出、課題解決の取組の検討・実施、指標を活用した効果測定、そして結果のフィードバック**を実行します。
- 「手引き」の「**取組の進め方（実現ステップ）**」に沿うことで、こうした**観光を活用した持続可能な地域経営が実現**できるようにしています。
- なお、「手引き」を実際に活用される地方自治体・DMOなど、この課題に取り組む方々にとって、役立つものとなるよう、**地方自治体やDMOなどの皆様に多くのご意見を頂き、それも踏まえ、本年度末までに「手引き」を策定すべく検討を行っております。**

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」とは何か？

- 「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」は、観光を活用して持続可能な地域経営を実現するために、どのように取組めばよいかを整理したものです。

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き（案）」の目的



出所) 「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き（案）」

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」には何が書いてあるのか？

- 「手引き」では、観光を活用した持続可能な地域経営を実践する地方自治体やDMOの方々等に向け、必要となる「知識（ノウハウ）」「能力・技術（スキル）」についても、「取組の進め方（実現ステップ）」に沿って具体的かつコンパクトにとりまとめています。

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き（案）」の構成

I. 観光を活用した持続可能な地域経営の意義・重要性	さきほどご説明した「観光を活用した持続可能な地域経営を行っていく意義」
II. 手引きのねらい、活用方法	読み手は現場で取組を進める自治体・DMOの職員の皆さん（＝推進リーダー）
III. 手引きのポイント	実現ステップとそれごとの取りまとめ様式があること、役割分担の紹介
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="218 853 942 968">IV. 観光を活用した持続可能な地域経営に取り掛かる準備</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="962 882 1302 939">このあとご紹介</p> </div> </div>	
<p data-bbox="218 975 575 1153">V. 観光を活用した持続可能な地域経営を実現する11ステップ</p>	<p data-bbox="585 975 942 1153">VI. 観光を活用した持続可能な地域経営を支える仕組み</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="218 1160 942 1246">VII. 先進事例</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="962 1196 1605 1239">先進事例を実現ステップに沿って紹介</p> </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="218 1260 942 1330">資料編</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="962 1275 1808 1318">取りまとめ様式・アンケート項目、研究動向、等</p> </div> </div>	

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」を使ってできることは？

(本手引きによって、「持続可能な地域経営」に取り掛かる難しさを軽減します)

- 取り掛かりやすく、かつ、成果が見えやすい分野から「持続可能な地域経営」を進めるべきであり、そのような観点から、観光を切口とした取組の具体的な進め方を示しています。

(本手引きによって、全国、世界の研究・知見、先進事例の成果を活用できます)

- 観光分野には、持続可能な観光地づくりのプロセスに関する研究・知見の蓄積があります。また、全国、世界で先進的に取組を進めている事例があり、課題解決の成果を上げています。手引きはこうした蓄積を踏まえて作成しています。

(本手引きによって、「持続可能な地域経営」を実現するために必要な事項が分かります)

- 「持続可能な地域経営」とは何か、どのような体制、人材、スキルが必要かが分かります。
- 観光を切口とした、利害関係者の参画の促し方や「持続可能な地域経営」に活用できる指標や先進事例が分かります。
- 実現する具体的なステップ、ステップごとの役割分担、ステップごとのとりまとめ事項などが分かります。
- 取りまとめ事項を整理する様式、取組で活用するデータの所在情報、また、取組にアドバイスを頂ける官民の機関や専門家へのアプローチ方法などがあります。

- 本手引きを活用していただくことで、客観的に整理された事実・根拠等に基づいて、実践的に観光を活用した持続可能な地域経営を行っていくことができるようになります。

観光の切口・活用ポイント

- 観光を切口とした取組の具体的な進め方
- 全国、世界の研究・知見の蓄積、先進事例の成果

観光庁・UNWTO駐日事務所
等関係行政機関・有識者からなる委員会で検討

「観光を活用した
持続可能な地域経営の手引き」

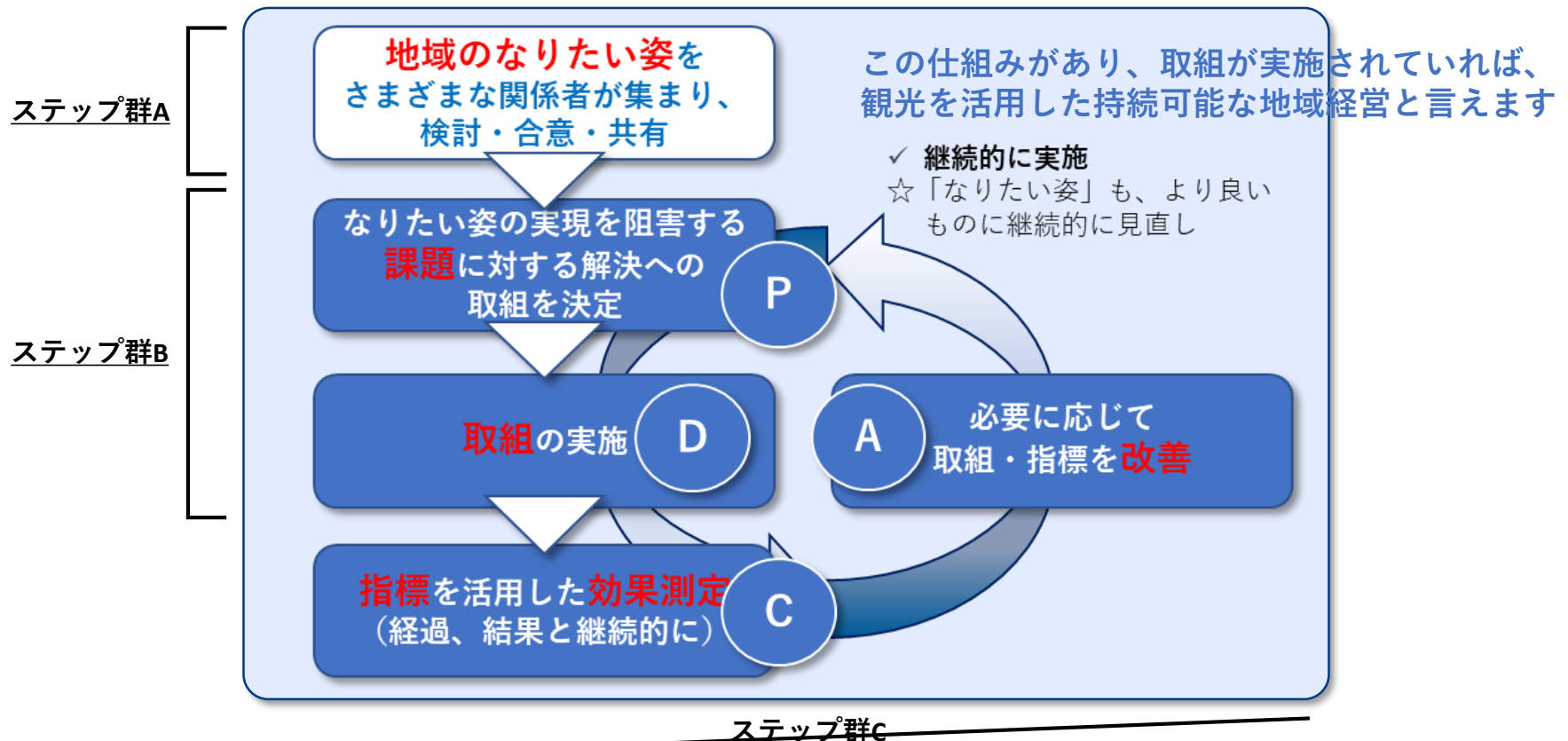
持続可能な地域経営の実現！

現場で取組を進める自治体・DMOの職員の皆さん
などのご意見を聴取・反映

「観光を活用した持続可能な地域経営」はどのようなステップで取り組めばよいか？

- 「手引き」では、地域のなりたい姿を共有し、それを実現するための課題の抽出、課題解決の取組の検討・実施、指標を活用した効果測定、そして結果のフィードバックという一連のPDCAサイクルの具体的な進め方を示しています。
- これらを、実現のステップ群A、B、Cとして整理しています。

「手引き」の実現ステップによるPDCAサイクル



「観光を活用した持続可能な地域経営」はどのようなステップで取り組めばよいか？

- 「観光を活用した持続可能な地域経営」を進めていくためのステップは、準備、順番に実施するステップ群A~C、そして詳細な11のステップで構成しています。
- 目的の明確化、既存状況の整理、関係者の参画を図る準備の段階を丁寧に行うことが極めて重要です。以降の実現11ステップをスムーズに進めるためにも、推進リーダーを特定して進めることが大切です。

観光を活用した持続可能な地域経営の実現ステップ

実現ステップ

（観光を活用した持続可能な地域経営に取り掛かる準備）

- ✓ 観光を活用した持続可能な地域経営に取り組む意義・期待・取組の目的の明確化
- ✓ 既存の関連計画・施策・課題／指標・データの整理
- ✓ 他部署・関連事業者の参画活動

- ✓ 準備が一番大事、推進リーダーが主役
- ✓ JSTS-Dを使った自己診断から始めることも有効

実現ステップ

ステップ群A 地域のなりたい姿と課題を明確にする ステップ1~4

- ✓ 対象地域や課題は取組ができる範囲から始める

ステップ群B 解決する課題を特定し、指標を具体化する ステップ5~8

- ✓ 課題に対応した指標例、また、JSTS-Dの指標を参考に

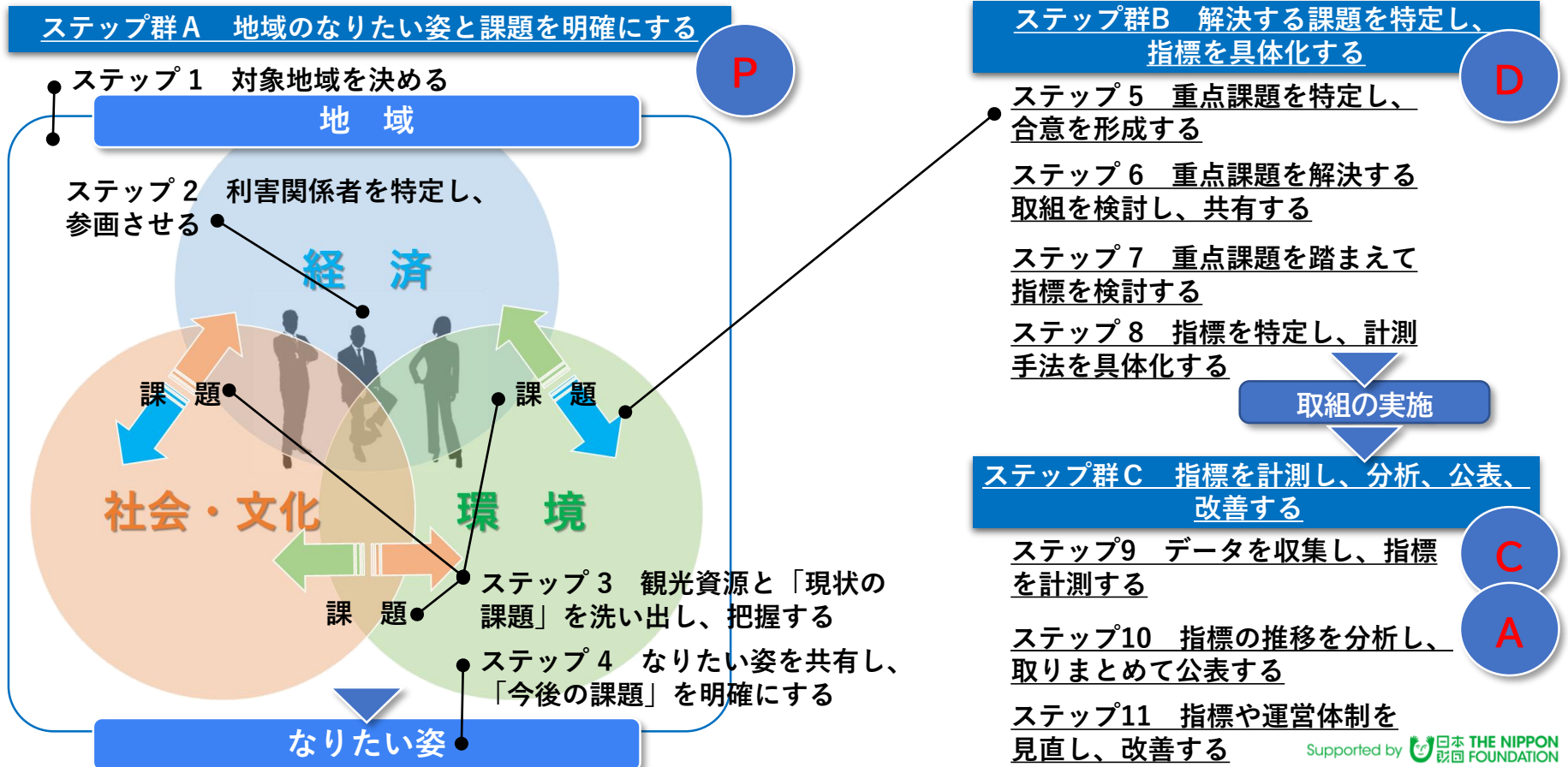
ステップ群C 指標を計測し、分析、公表、改善する ステップ9~11

- ✓ 指標の計測もコスト含めて無理のないところから

「観光を活用した持続可能な地域経営」はどのようなステップで取り組めばよいか？

- ステップ群A～Cは順番に進めますが、この11のステップは標準型として示しています。既に実施済みや取組を進めているステップがある場合は、他のステップから取り掛かっても問題ありません。例えば既存の観光振興計画等では、なりたい姿、課題、取組等が整理されていると考えられますので、そのまま活用することも可能です。
- しかし、既存の観光振興計画等が、経済面、社会・文化面、環境面の全ての側面から検討されているかの確認が必要です。

観光を活用した持続可能な地域経営の実現ステップ（詳細）



「手引き（案）」に対する地方自治体・DMOからのご意見と対応について

- ▶ 「手引き（案）」についての地方自治体やDMOの皆さんとの意見交換会（今秋「運輸局別ブロック別セミナー」）で、多く頂いたご意見を踏まえ、「手引き（案）」の改善を図りました。

「手引き」についての主なご意見と対応

○「観光を活用した持続可能な地域経営」に取り組む必要性・効果を関係ステークホルダーにより分かりやすく説明できるものにして欲しい。関係者の合意形成の図り方についても詳しく示してほしい。

- ✓ 多様な地域のステークホルダーを参画させるにはどのようにすればいいのか、合意形成を図るためにはどのようにすればいいのかということも示して欲しい。
- ✓ 実態として経済面でもメリットがあると説明できると関係者間の合意がとりやすくなると思うので、この点についても示してもらえるとありがたい。
- ✓ 地方自治体内で、観光以外の部署の参画をどのように促していくのがよいかという方法が分かるものにして欲しい。



関係者に対する「説明のポイント」等について充実を図る。

○どのような指標を使えばよいか分かるようにして欲しい。



課題別の候補指標の充実と指標の活用の仕方について充実を図る。

○読みやすい、使いやすいものとして欲しい。



文章・図表を改善、新たに使い方ガイド(概要版)を作成

「手引き（案）」に対する地方自治体・DMOからのご意見と対応について

○「観光を活用した持続可能な地域経営」に取り組む必要性・効果に関係ステークホルダーにより分かりやすく説明できるものにして欲しい。関係者の合意形成の図り方についても詳しく示してほしい。

主なご意見(全般)

危機感の共有を事業者等とどのように図っていくべきか。関係者との合意形成をどのように図っていくべきかについて示してほしい。【全ブロック】

多様なステークホルダーに参画頂く際に、それぞれに合わせた説明の方法を示すようにしてほしい。特定団体のリアクションが時によくない。【全ブロック】

主なご意見(地方自治体における他部署連携)

観光の取組は始めやすいが、それ以外の分野との取組を進めづらい。他部署は仕事が増えると嫌がる傾向がある。他部署の巻き込み方についても示してほしい。【東北】【近畿】

主なご意見(経済面)

短期的な効果が期待できない取組等への理解を得にくい。取組の費用対効果が分かりづらいと理解や合意を得にくいので、この点への対処方法を示してほしい。【北陸】【中部】

観光の効果(経済的な効果や文化の維持・継承等)について、地域住民に対し分かりやすいデータや効果的な周知・説明方法について示してほしい。【北陸】【中国】

対応:関係者に対する「説明のポイント」等について充実を図る。

以下のようなことなどを手引き（案）において示すようにした。

(全般)

- もはや持続可能性を念頭に置かない地域の取組はありえない。本取組の目的である将来の住民（=子供たち）につないでいけるようにしないといけないという危機感の共有を図るようにする。
- この地域は50年、100年後も住み続けたい地域となっているのかということで、改めて意見交換・意識共有を図るようにする。
- 「この指とまれ方式」で、意識の高いメンバーから始めてみるということも考えられる。

(地方自治体における他部署連携)

- 他部署の計画・取組、また、目標・指標などを率先して整理することで、連携して取り組む必要性を示す。
- 当面解決すべき課題に関係する部署から連携を始める。

(経済面)

- 持続可能性のある地域への観光に対する市場の志向は高い。観光地として選ばれるために、また適切なプライシングで観光商品売るためにも本取組は不可欠。さまざまな産業の雇用創出や後継者確保につながる。

「手引き（案）」に対する地方自治体・DMOからのご意見と対応について

○どのような指標を使えばよいか分かるようにしてほしい。

主なご意見

SDGs未来都市等であっても、十分な指標は用意できていないので、どのような指標を使えばいいのか示してほしい。【北海道】【関東】

JSTS-Dの項目でも多すぎて手が回らないので、どのように指標を活用して取り組んでいけばいいのか示してほしい。【関東】

地方自治体としても指標の取り方が分からないものがあるし、DMOの必須指標である、消費額、満足度も取り方がよく分からないことがあるので、その点についても何かしら参考になることを示して頂けるとありがたい。【近畿】

住民のQOLや幸福度に関する指標があるとよい。【北海道】

○読みやすい、使いやすいものとして欲しい。

主なご意見

本文が長い。簡潔に表現する・もう少し細かく小見出しを付け見やすくするなどしてほしい。要点がまとまった箇所があるとよい。【全ブロック】

必要箇所を逆引きして参照できる工夫もできるようならありがたい。ポイント部分はそのまま首長や観光協会等関係者への説明に使えるものがあるとよい。【北海道】

対応: 課題別の候補指標の充実と指標の活用の仕方について充実を図る。

以下のようなことなどを手引き（案）において示すようにした。

- JSTS-Dをチェックリストとして活用し、取組が進んでいない分野を特定した上で、課題分野に関する指標から取組を始める。
- 地域の特徴や課題について整理した上で、先進地域の指標例を紹介する。
- アンケートで取得する消費額や満足度、再来訪意向等についてはアンケート項目例を示したり、今後重要となる指標（幸福度、サプライチェーンの実態等）については事例や方法を掲載

対応: 文章・図表を改善、使い方ガイド(概要版)を作成

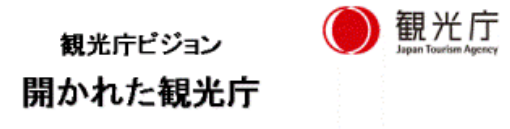
- 「手引き」本文は、ご意見内容を踏まえ、文章・図表を改善
- 「手引き」のポイントと該当箇所、そのまま利害関係者に活用できる資料などをまとめた「使い方ガイド」を新たに作成

観光を活用した持続可能な地域経営への挑戦

「訪れてよし」だけでなく「住んでよし」の地域経営へ

- 今回の手引き作成の取組は、観光分野の特徴とそこで蓄積された知見等を活かして「持続可能な地域経営」を進めていけるようにするためのものです。これは、近年観光分野が「訪れてよし」に軸足が置かれがちであったところ、「**住んでよし**」の**重要性**を改めて理解していただくためのものであるともいえます。
- 観光分野で培った力を他分野、他産業、地域全体に活用していく今回の取組を通じて、**観光振興そして観光行政が、「訪れてよし」だけでなく「住んでよし」の持続可能な地域経営にどのように貢献できるかが明らかになるもの**と考えています。
- 観光振興だけを目的とするのではなく、観光振興を手段として何ができるかを示すためにも、全国各地域での「観光を活用した持続可能な地域経営」への挑戦を成功させましょう。

観光庁ビジョン



観光庁の理念

私たちは、「**観光立国の実現**」を通じて、我が国経済社会の活性化、活力に満ちた地域社会の実現の促進、国際相互理解の増進や国際平和の実現、健康で文化的な生活の実現などに貢献します。

このため、具体的な目標を定めて、以下のとおり「**住んでよし、訪れてよしの国づくり**」に取り組みます。

- 我が国の魅力を内外に発信します。
- 国内外の交流人口を拡大し、我が国や地域を元気にします。
- 地域の自律的な観光地づくりを応援します。
- 観光関連産業を活性化します。
- すべての人が旅行しやすい環境を整備します。

観光庁の行動憲章

私たちは、国の行政の新しい姿を目指し、「**開かれた観光庁**」として新しい意識と組織文化の創造に職員一人一人が取り組みます。

観光庁5か条

- 民間、地方自治体、他省庁などと交流し、新しい力を発揮します。
- タテ割りに陥ることなく、無駄を省いてスピード感を持ち、迅速に成果を出します。
- 積極的に情報を発信し、仕事のプロセスや結果を公開します。
- 専門性の向上に努め、観光に関する相談には幅広く応じます。
- 壁のない自由なコミュニケーションを徹底し、働きやすい職場環境を作ります。